

# 資料 3

「宮古市中心市街地拠点施設整備事業・基本構想（案）」に関する意見等への反映・対応について(H26.10.17)

頁	項 目	意 見 ・ 修 正 等	意見等の反映内容、今後の検討方針
		財源の使途期限ではなく、事業の必要性の説明、特に、庁舎移転の必要性の説明が不足している。	【Q & A : 1 ~ 3】
		現庁舎の耐震性能について、わかりやすい説明が必要である。	【Q & A : 1 ~ 3】
		仙台市・横浜市・岩沼市等で耐震補強をして、現庁舎を活用している例がある。それらの事例を分析し、比較検討すること。	耐震補強を施した他市の例は下記のとおりです。なお、横浜市の庁舎については、耐震補強したものの巨大地震に際しての耐震性には尚問題があり、移転・建替の議論がなされているとのことです。耐震補強を選択している市町村は、建物の面積に対して改修費が比較的安価であるようです。建物の構造によっては、耐震補強に多額の費用を要し、建替えた場合の方がライフサイクルコスト（初期建設費及び維持管理経費）を比較した場合、有利だと言えます。 〔仙台市〕 S40年築・延床面積 約25,000㎡・改修費 約 9億円 〔横浜市〕 S34年築・延床面積 約21,000㎡・改修費 約30億円 〔岩沼市〕 S49年築・延床面積 約6,000㎡・改修費 約 4億円
		市庁舎が「主」で、その他の保健センター、防災拠点施設、地域活力創出拠点施設が「従」というイメージが拭えない。市庁舎整備が前面に出るのは良くない。その他の施設をイメージし易い形で説明する必要がある。	市の全域について、今後の新たなまちづくりにおける各拠点地区が果たす役割を整理しました。その中で、中心市街地地区の拠点施設については、全体的な役割を「地域防災拠点」として、全施設について、平常時と災害時の機能を割り振り、各施設のイメージを分かりやすく説明していきます。 【基本構想（案）：P 5、24～26】 【Q & A : 1 2】
		宮古駅北側と南側とを結ぶ自由（連絡）通路について、整備の方向性を明示すること。本事業を実施する上で整備は欠かせない条件であり、相当の経費がかかるのは覚悟して検討するべきである。	宮古駅の南北を結ぶ自由（連絡）通路の形状や利用形態、財源も含めて検討します。 【基本構想（案）：P 14】

		<p>事業予定地へのアクセス道路など、防災拠点にふさわしいアクセス性の確保の検討が必要である。（施設の配置、東側道路のカーブなど）</p> <p>特にも、交通渋滞の悪化が懸念される。</p>	<p>配置図のイメージは、復興交付金の取得のために、仮に配置したものです。基本計画の策定作業や調査委託の中で、施設の配置やアクセス道路などを含めた計画図の作成を行います。</p> <p>【Q&amp;A：6～7】</p>
		<p>駐車を十分に確保すること。パーキングの有料化を例として、管理形態は重要な課題なので、検討する必要がある。</p>	<p>駐車場の必要台数の算定は、用地配置を決める重要な課題ですので、市民等の来訪者利用や公用車等について、現状の利用実態等や施設の利用想定を踏まえて検討します。</p> <p>駐車場の利用実態は、現庁舎等の利用状況を調査中です。また、市民アンケートでも交通手段を確認しており、それらも分析します。整備予定地の交通量調査は実施済みであり、それらを反映していきます。</p> <p>【Q&amp;A：8】</p>
		<p>津波被害だけではなく、洪水被害を想定した対策を検討すること。</p>	<p>現在は、浸水ハザードマップで、拠点施設の用地で2～5mの浸水の想定を示しています。1階を吹き抜けにしたり、底地の嵩上げをしたり、様々な対応策が想定されることから、今後検討していきます。例えば、防災システム機器等は上層階に配置したいと考えています。</p> <p>【Q&amp;A：9】</p>
		<p>市庁舎の跡地の利用策について、検討すること。</p> <p>例えば、基本理念にもある「市街地の活性化を図る施設」を拠点として、これを契機に中心市街地のあり方を検討するといったスタンスを示すことも必要である。</p>	<p>跡地利用に関しては、重要な課題と認識しています。企業への売却は現在想定しておらず、公共的な利用を前提に議論していきます。市民アンケート調査の結果のほか、若い人たちにワーク・ショップ形式で議論してもらうことも考えています。</p> <p>また、本委員会でも、跡地利用について議論してもらいます。</p> <p>跡地利用については、宮古駅南側と現庁舎用地に拠点性を持たせることが必要であり、中心市街地全体として、大きなスケールで新拠点を位置づけ、例えば、宮古駅南側から北側、商店街、現庁舎跡地、さらに出崎地区や浄土ヶ浜のエリアも含めて、周遊性を持たせる仕掛けづくりが必要と考えています。</p> <p>【基本構想（案）：P14】</p> <p>【Q&amp;A：19】</p>
		<p>専門用語など、わかりやすく表現・解説すること。</p> <p>例えば、用語解説が資料編の最後のページにあるが、注釈をつけて、記載されているページで解説してはどうか。</p>	<p>基本構想（案）の各記載ページで解説をします。また、概要版など市民向けに配布し説明する資料でも、わかりやすい表現や解説に配慮していきます。</p>

		市民の意見を聴取するための方法について、多様に実施すること。 例えば、防災拠点施設、地域活力創出拠点施設について、市民の幅広い意見を取り入れること。(利用者にとって使いやすい機能とすることなど。)	市民アンケート調査や市民説明会のほか、利用が想定される方々からもご意見を伺っていきます。 また、施設の愛称の公募なども、市民参画の一手法だと考えています。
		市民への情報提供・公開を行うこと。 特に、市民向けに、具体的な施設のイメージが持てるような説明が必要である。	市民向けには、ホームページ上で本会議の会議録や議会及び市民説明会の資料を掲載公開しています。今後も、広報みやこのほか、ホームページ、フェイスブックなどの様々な媒体で周知していきます。 また、ホームページ上に、「よくある質疑応答集 (Q & A)」を掲載し随時更新していきます。
1～2	1 事業の背景 (1) 事業の背景	内容整理 【修正前】 ア 市町村合併、東日本大震災と人口減少 イ 公共施設の再配置の必要性 ウ 震災後の新たなまちづくりの必要性	【修正後】 ア 市町村合併と人口減少 イ 東日本大震災と新たなまちづくり ウ 公共施設の再配置の必要性 エ 公共交通
1～2	1 事業の背景 (1) 事業の背景	資料追加	追加資料 「資料 5 宮古市域における各拠点の役割」
4	1 事業の背景 (3) 長期計画等における位置づけ	内容修正 (加筆)	追加部分 「特に、平成 26 年度においては、「宮古市総合計画・後期基本計画 (平成 27～31 年度)」の策定と、「新市建設計画」の延長や見直しを予定していますので、本事業を計上していく必要があります。」
5	2 事業の推進 (1) 事業検討の方向性	内容修正 【修正前】 本事業で整備の検討を想定している拠点施設は、次のとおりです。 ①防災拠点施設 ②地域活力創出拠点施設 ③本庁舎 ④宮古保健センター	【修正後】 本事業では、拠点施設の全体を「地域防災拠点施設」と位置付け、防災体制の構築のほか、災害時に市民を守るための機能を最大限発揮する施設として、次のとおり計画します。 ①防災・地域活力創出拠点施設 ②本庁舎 ③宮古保健センター

6	2 事業の推進 (2) 基本理念及び 基本方針	内容修正（加筆）	追加部分 ■基本理念-2 便利でわかりやすい、親しみのある施設 「③周辺の景観と調和した親しみのあるデザインとして計画します。」
9～ 10	4 規模、概算事業費 及び整備財源 (1) 施設の規模	内容整理 「2 事業の推進（1）事業検討の方向性」で示した施設区分に応じて、内容を修正しました。」 【修正前】 ①防災拠点施設（単独分） 260 m <sup>2</sup> ②地域活力創出拠点施設 4,150 m <sup>2</sup> ③本庁舎 10,000 m <sup>2</sup> ④宮古保健センター 950 m <sup>2</sup> 合計 15,360 m <sup>2</sup>	【修正前】 ①防災・地域活力創出拠点施設 4,410 m <sup>2</sup> ②本庁舎 10,000 m <sup>2</sup> ③宮古保健センター 950 m <sup>2</sup> 計 15,360 m <sup>2</sup>
9	4 規模、概算事業費 及び整備財源 (1) 施設の規模	内容修正（加筆） 拠点施設全体の説明文を追加	追加部分 「地域防災拠点施設の整備については、災害対策本部としての機能のほか、停電時への備えはもちろんのこと、一時避難機能や外部支援を含めた被災者支援の拠点としての機能、さらには防災教育・津波記憶伝承などの機能が必要です。 なお、施設整備にあたっては、それぞれの機能が防災・地域活力創出拠点施設や市庁舎、宮古保健センターに分類されることから、内訳を次のとおり整理します。」
9	4 規模、概算事業費 及び整備財源 (1) 施設の規模	内容修正 防災・地域活力創出拠点施設の説明文 【修正前】 地域活力創出拠点施設の整備については、交流機能や子育て支援機能における必要面積を集約し、合計4,150 m <sup>2</sup> の延床面積を想定します。なお、その一部は、平常時には防災教育・学習の場としても活用し、災害時には、避難者の受入れ（一時避難機能）や被災者支援の場として活用します。	【修正後】 交流機能や子育て支援機能のほか、防災教育・学習の場としても活用を予定します。災害時には、避難者の受入れ（一時避難機能）や被災者支援の場として活用します。施設規模は、一時避難場所となる防災施設への避難想定人口約2,000人の受入れ、被災者支援の場として活用を想定し、約4,410 m <sup>2</sup> を想定します。

9	4 規模、概算事業費 及び整備財源 (1)施設の規模	内容修正（加筆） 市庁舎	追加部分 「防災・災害対策本部機能としての専用室を有し、ライフラインの代替設備を備えることとします。」
10	4 規模、概算事業費 及び整備財源 (2)概算事業費	内容修正（加筆）	追加部分 「ただし、今後も公共事業の増加等を要因とし、さらに資材や労務単価が上昇することも想定されることから、そのような状況を注視していきます。」
11	4 規模、概算事業費 及び整備財源 (3)整備財源	内容整理 「2 事業の推進（1）事業検討の方向性」で示した施設区分に応じて、内容を修正しました。」 【修正前】 ①防災拠点施設（単独分） 復興交付金、一般財源 ②地域活力創出拠点施設 復興交付金、一般財源 ③本庁舎 合併特例債、復興交付金、一般財源 ④宮古保健センター 災害復旧費、一般財源	【修正後】 ①防災・地域活力創出拠点施設 復興交付金、一般財源 ②本庁舎 合併特例債、復興交付金、一般財源 ③宮古保健センター 災害復旧費、一般財源
14～ 15	7 今後の諸課題	内容整理及び追加 【修正前】 (1) 施設の集約・利活用と整備施設の規模等 (2) 事業スケジュールと事業手法 (3) 市民の参画と協働及び情報の開示	【修正後】 (1) 施設の集約・利活用 (2) 施設規模の算定 (3) 宮古駅の南北を結ぶ自由通路の確保 ※追加 (4) 洪水対策 ※追加 (5) 交通対策 ※追加 (6) 事業スケジュールと事業手法 (7) 市民の参画と協働及び情報の開示
14～ 15	7 今後の諸課題	内容修正 (1) 施設の集約・利活用 【修正前】 施設の集約にあたっては、現有施設及び用地の利活用についても検討が必要です。例えば、現有施設を廃止する場合は、跡地の効果的な活用方法についても、市民ニーズを広く聴き、多くの人々が集う憩いの場を計画するなど、具体的な検討が必要です。	【修正後】 施設の集約にあたっては、現有施設（本庁舎や分庁舎）の用地の利活用について検討し、宮古駅南側の拠点と結ぶ新たな拠点として整備を検討します。検討にあたっては、跡地の効果的な活用方法について、市民ニーズを広く聴き、多くの人々が集う憩いの場を計画し、中心市街地地区への波及効果などを検証します。

14～ 15	7 今後の諸課題	<p>内容追加</p> <p>(3) 宮古駅の南北を結ぶ自由通路の確保</p>	<p>追加部分</p> <p>「本事業では、来庁者の利便性の面や地域の賑わいの形成、活性化の促進、災害時の避難動線の確保の面から、宮古駅の南北を結ぶ自由通路の確保が重要です。今後は、施設の配置計画と並行して、自由通路の形状や利用形態などを具体的に検討します。</p> <p>また、自由通路の建設費についても、出来る限り市財政の負担とならないように、有利な財源の確保についても検討します。」</p>
27	資料 6 施設面積 計算表	<p>内容修正</p> <p>「2 事業の推進 (1) 事業検討の方向性」で示した施設区分に応じて、修正しました。</p> <p>【修正前】</p> <p>資料 6-1 ①防災拠点施設 ②地域活力創出拠点施設</p>	<p>【修正前】</p> <p>資料 6-1 ①防災・地域活力創出拠点施設</p>
31	資料 8 宮古市総合 防災ハザードマ ップ（洪水・土砂、 市街地）	<p>資料追加</p>	<p>追加資料</p> <p>「資料 8 宮古市総合防災ハザードマップ（洪水・土砂、市街地）」</p>

＊上記の検討方針に基づき調査等を進め、また、市民アンケート調査の集計結果について、「基本計画」の策定業務等の中で反映させていきます。

＊別添「事業に関する Q & A」を参照してください。

＊上記のほか、軽微な文言等の修正をしています。